

10_ 女性を怖がってちゃ、何も始まらないよ

どうも、高橋りょうです。

質問します。

あなたはこれまで
恋愛に挑戦して、

失敗したことがありますか？

恥をかいたことがありますか？

後悔するほどの自責に苛まれたことがありますか？

...

僕は、あります。

一番覚えているのが、

好きな女性に告白して、フラれたこと。

フラれる度に、自尊心とプライドが傷つき、
「自分は、ダメな人間なんだ…。」

と自分を責めて、
深く落ち込みました。

決して、周りから見ても
カッコいい姿ではなかったと思います。

たくさん、恥をかきました。

「俺の実力なんて、こんなもんか…。」

そんな無力感にも打ちひしがれました。

自分を嫌いになりかける瞬間です。

…でも。

後悔だけはありません。

“なぜ…？”

それは、

失敗から

学べたことがたくさんあったから。

好きな女性に告白した時——。

フラれはしたけれど、

「ありがとう ^ ^」

と言ってもらえた。

気持ちを伝えたら、
困らせるとか、気持ち悪がられるとか、

そんな風に思っていました…。

でも。

「気持ちには応えられないけど…。」

と、申し訳なさそうに言いながらも、

どこか嬉しそうにしてくれました。

ここから学び取れたこと。

“自分も、タイプの女性に喜びを与えられる存在なんだ。”

と思えたこと。

当時の僕は、男としての自信なんて
てんでありませんでした。

頼りないし、

いつも不安そうだし、
自信なさそうだし…。

“ただのカッコつけ。”

その実（じつ）、

“ダサい男。”

それが、当時の自分に対する
セルフイメージでした。

だから、こんな男から好意を伝えられても、

「気持ち悪がられるだろう」と思っていました。

でも、実際は違っていた。

「好き」

と、自分が言ったことで、
女性の

“異性（男性）にモテたい”

という欲を満たしてあげること
ができたのです。

女性も、
男性からモテたいと思っている。

その

“男性”

のカテゴリーに、自分も入っていることが分かって、
それが嬉しかったのです。

...

とはいっても、
自分の告白に OK して、
彼氏として受け入れてもらえなかったことには、

やはりプライドが傷つきましたけどね。(苦笑)

完治まで、
しばらくかかっていたと思います。

でも、たぶん
ここからだったと思います。

自分が好きな女性。
ドタイプの女性。

心臓を掴まれるぐらい、かわいいと思ってしまう美女。

そんな女性たちの前でも、
胸を張って堂々としていられるようになったのは。

彼女たちから見ても、
十分、自分は魅力的に映っている。

その自信は、
過去に告白した女性がもたらしてくれた。

その実りを受け取れたのは、これまで
自分自身の「男」を磨いた努力の蓄積があったから。

センスある服装

清潔感のある髪型

健康を思わせる美肌

相手を楽しませるトークセンス

Etc.

できる限りの努力を積み足していきました。

好きだと思う女性に

振り向いてもらうために…。

それが、結果的に、

“功を奏した”

と、僕は考えています。

しかし、それを得るまでは、
どこまで自分磨きをしても、

どうしても自信が持てませんでした。

なぜ？

簡単です。

⇒女性を避けていたから。

要は、

女性を怖がっていた。

何を怖がっていた？

こんなに努力した自分を、

もし受け入れてもらえなかったら、どうしよう…。

という不安。

高校や大学受験で、

例えるなら、

「俺はできるんだ、できるんだ…っ！」

と自分に言い聞かせて勉強するだけで、
いつまで経っても模試を受けようとしない、

そんなビビり君と、同じだったわけです。

現実を知ろうとしない。

なぜ？

実力が露呈して、
思うように点数を取れずに、
自分に失望するのが怖いから。

これでは、途中までは順調に事が進んでも、
必ず頭打ちになるものです。

“まずは、実力を知ることから。”

それから、次に
なすべきことが見えてくるものです。

これは、受験だけに限らず、
恋愛でも同じことが言えます。

自分は女性に、
どれだけ魅力的に見えるのか？

その魅力度を測ることが、
ある段階では、絶対に必要です。

その手段の一つが、
僕の場合、女性への告白だった、というわけです。
(狙ってやったわけでは、ないですけどね)

フィードバックを貰えた。

その女性の彼氏にはなれなかったけれど、
そこから、

「どうしたら、OK を貰えたんだろう？」

「OK を貰うために、自分には何が足りなかったんだ
ろう？」

それらを自分自身に問いて、
必死で頭を使って考え、

出した仮説と、

いろいろな書籍や恋愛教材を読み漁って得た知識と
を
照らし合わせながら、

自分なりの答えを導き出しました。

その一つが、

「女性をその気にさせるムードを作っていなかった。」

ということ。

女性を怖がっていた当時の僕は、
自分から、積極的に女性を好きになる努力が欠けてい
る
ところがありました。

ここで言う好きとは、
「素直な好き」、という気持ち。

好きだから避ける…
(→フラれるのが怖いから)

といった、
複雑な気持ちではなく、

純粹に、好きという気持ち。

好きだから、
相手のために、何ができるだろう？

そんな、慈愛に満ちた
メンタルが足りなかったのです。

恋愛が下手な人は、
好きな女性を目の前にすると、

一見、相手に意識が向くようで、
実は、

自分にばかりに意識が向きがち
になります。

なぜか？

自分に自信がないから。

それはすなわち、

「こんな自分を好きになって欲しい。」

という気持ちに他なりません。

これでは、

女性の心は動かさないんです。

女性の心が動く時というのは、
「自分に、〇〇してくれている」

と、相手が感じた時です。

例えば、
相手をドキッとさせるために、

ふとした瞬間に顔や体が近づくように、
意図的にシチュエーションを作って、自分に意識する
よう、
ちょっとした演出をしたり、
(強者だと、そこからキスしちゃったりもしますね)

たくさん話をさせてあげて、

居心地の良い時間を提供してあげたりと、

相手が自然に自分を好きになるような、
したたか且つ、誠実な態度で臨むことがキモになります。

要するに、

「くれくれ」

な態度では NG で、

「与える」

態度で臨めば、OK だということです。

（これは、相手が喜ぶこと前提です）

何を与えられるか？は、

これからあなた自身が見つけていくものです。

僕も、

はじめから与えられるスキル

を持っていたわけではありません。

女性に散々フラれ続け、そこから何が足りなかったのか？

を必死に考え、

自分の強みを発見、そして理解し、
それを武器に、与える実践を無数にこなし、

その結果、
今の実力があります。

とは言っても、
僕もまだまだです。

魅力的な女性に
もっともっとモテるようになるための
道に行く途中です。

精進する余地は、多分にあります。

このことから言えるのは、

“全ての人は、途中過程”

だということ。

これからスタートする人であっても、
すでにスタートして久しい人であっても、

それは変わらない、ということ。

その点に置いては、
あなたも僕も、世の中に存在する恋愛強者たちも

何ら変わりはありません。

そう考えたら、
女性に挑戦して失敗したとしても、

「それでも挑戦した自分は偉い！」
と、許せる心を持つことができるのではないでしょう
か。

僕たち男は、

女性にフラれることを恐れます。

それは、自尊心やプライドといったものが
傷つく恐れがあるから。

でも、
その失敗から得られることは、
ものすごくたくさんあります。

そのことを、
モテる男は理解しています。

だから日々、
実践を繰り返しています。

「小さく、テストする」

という形で。

昔の僕みたいに

「当たって砕けろー！」

精神で、無謀に女性に告白する必要は必ずしもないと
と思いますが、
積極的に、女性と交流を持つことは、ものすごく大切
になることは、確かです。

“女性を怖れずに”

女性はむしろ、
自分に男としての自信を与えてくれる愛おしい存在
です。

そう考えたら、女性に対する恐怖心も、
随分と和らぐと思います。

ぜひ、ちょっとずつでもいいので、
自分から女性に声をかけたり、何かをオファーしたり
と、

交流を持つことに積極的になってくださいね。

...

ということで、今回のメッセージは以上です。

ありがとうございました。